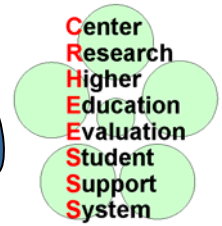


週刊センターニュース No.203



第203号(2008年4月14日)毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第175回共同学習会参加報告

平成20年3月14日金曜日に共同学習会『FD実践と個別授業の改善』(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 佐藤浩章準教授)が行われた。

現在のFDは、初期の大人数に対する講演会形式のものから、少人数によるワークショップ型へとうつり、現在はそれぞれの授業の問題に対して個別にアドバイスをするコンサルタント型のFDが始まっているということであった。

大学の講義に対するものだけでなく、円滑な組織運営、仕事環境の改善という意味でも大変参考になる報告を聞かせていただいた。

共同学習会の報告ではコンサルティングという言葉を使っていらっしゃったが、アダプト(適応)する力とコーディネートを目的とした、またその力をつけるためのコンサルティングを行っていくと考えることで、FDのみならずSDにおいても応用が利く方法であった。講義形式で大人数に対して行うタイプやグループ毎にワークショップを行うタイプももちろん継続して行っていくが、限定的な人数にしか行えないが個別のコンサルタントを行うことで、それぞれの授業の細かい点を見ることができるという点で、顧客とマンツーマンで対応する職業の組織運営、カウンセリングと非常に似通った点を感じた。

授業や成績評価などにおいて、教員と学生は1対1であり、大学・学校など組織が代表して全ての責任を負う形の中で、教員と学生が1対1になるのがこれまでのあり方であった。学生一人一人に対して教員の組織・グループで対応していくことで一人一人の負担を減らしていこうという形は出てきているが、直接講義を担当しない教員が、講義を行う教員と学生の仲立ちをするという形は珍しいのではないだろうか。大学の授業改革、教育改革など学生の意見や意志、学生それぞれの環境などを考慮し改善を進めることにはスポットが上がっているが、教員に対するコンサルタント、もっと言えばカウンセリングも含めたサポートというものも必要になってきているということを感じた。

教員間の連携もはっきりとしたグループではなく、コンサルタントが仲介をした上での緩やかな同盟という形であれば、お互いに対する意見や提案なども角が立たずに進めやすいだろう。コンサルタントが情報を取得および再配布することは、それぞれの教員が希望に沿った情報を効率よく取得することができるという利点がある。さらには教員一人の概念では対応できない学生を拒絶することなく緩衝材を作ることができるという点で、間接的にドロップアウトに至る要因を減らすことも可能であ

ろう。コンサルタントと言っているが誤解を恐れずに言うと、動くデータベースとして情報整理・管理・検索を行う人材はますます必要になっていくであろうとも感じた。情報のデータ化、情報使用の効率化は教員が一人で行うには時間がかかりすぎ、効率的に使えるようにならないうちに頓挫してしまう可能性がある。だからといって行わなければ効率は上がり負担が増えるばかりでもある。そう考えても教員個人からみての外部のデータベースが存在することは利点である。

情報の引き出しが増えることや参照が楽になることは、学生にとって直接利益になることはあまり多くない。しかし実際の指導に至るまでのストレスと最新情報などの伝達の遅れを防ぎ、結果として良い指導を行うための環境を作ることになる。対応スピードの遅れは新たな問題を生み、結果的にクレームへと発展する可能性を孕む。一般企業であればひとつのクレームによる評判が業績を悪化させる原因ともなりうることを考えれば、コンサルタントの存在は問題を初期段階で処理することを容易にするという点において重要になってくる。事務作業の時間の一部が消えることはそれだけ授業そのものに力を割く時間をうむ。教員の無駄なストレスを削減することは、学生のストレスを減らすことにも繋がる。

大学の教員もまた個人であり、踏み込むべきである部分とない部分があるが、授業以外に対しての部分も必要に応じてバックアップする体制は必要ではないだろうか。この部分に関しては大学の場合非常に繊細な問題をはらむ場合もあるため安易に進めることはできないことは考慮に入れなければいけない。またコンサルタントそのものも良いところばかりではないだろう。研究の能力というよりも、ある一定の事務処理能力やコミュニケーション能力が必要になるからである。しかし授業や学生の対応の負担・・・つまりはストレスを減らす工夫はこれまでそれぞれの教員によるところが大きく、ある程度個別の作業状況へのアドバイスも必要ではないだろうか。

幸いにして本学ではアカンサスポータルにて効率化を進める環境が整いつつある。FD として Web での情報の保存・管理の効率化、全学として学生とのやりとりをさらによりよく取り組むための方法の工夫・共有を進めるために利用方法を模索していきたい。

(文責 大学教育開発・支援センター 特任助教 鎌田康裕)

センター所蔵FD関連図書のご案内

名古屋大学高等教育研究センターは、「成長するティップス先生」(*以下のHPを参照のこと)の製作など、各教員の授業改善の支援ツールの開発等で知られています。同様の授業改善ツールとして開発された以下の書籍を当センターに寄贈していただきましたのでお知らせします。当センター図書室にてご覧ください。

- ・ 「ティップス先生のカリキュラムデザイン」の開発(2008.1)
- ・ 英語で教える秘訣 大学教員のための教室英語ハンドブック (2008.3)
- ・ 研究指導を成功させる方法 学位論文の作成をどう支援するか
リチャード・ジェームス、ガブリエル・ボールドウィン著 (近田政博訳 2008.1)

* <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>